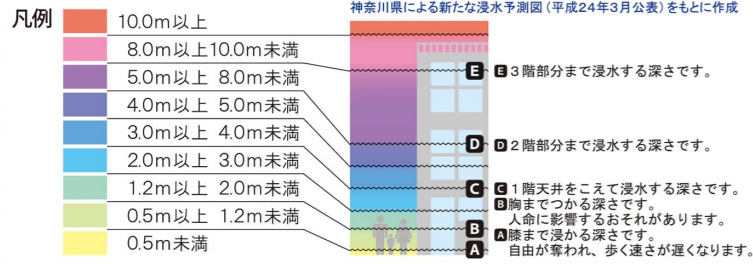
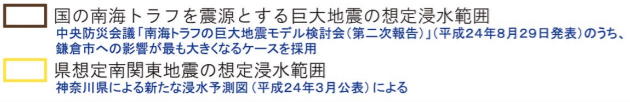


津波ハザードマップ

県想定応型地震による浸水の深さ



南海トラフ巨大地震と県想定南関東地震による想定浸水範囲

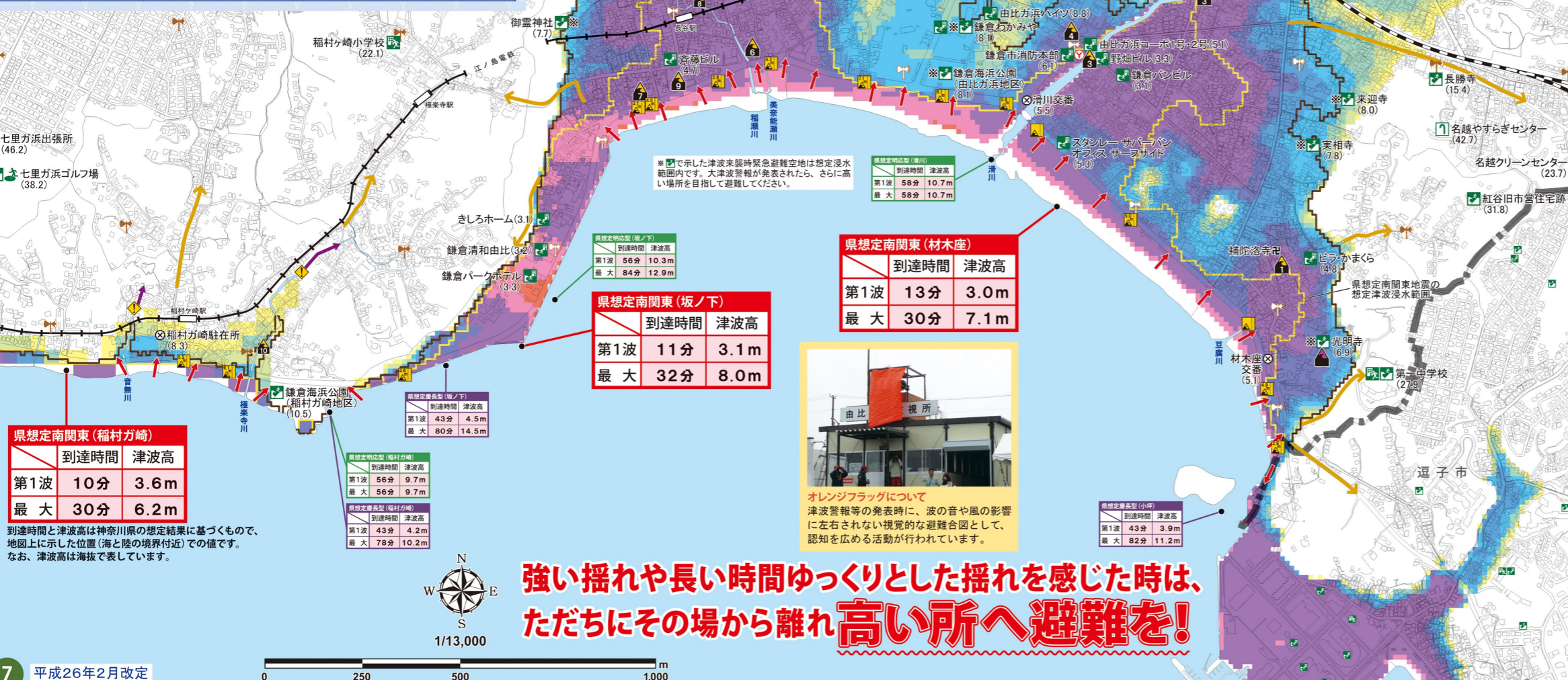


避難施設

- 避難所(ミニ防災拠点)
状況に応じて市の判断で開設します。
- 補助避難所
避難所(ミニ防災拠点)に収容することが不可能な場合に開設します。
- 津波来襲時緊急避難空地
津波の発生が予想され、緊急的な避難が必要となったときの一時的な避難施設(屋外)です。
- 津波来襲時緊急避難建築物(津波避難ビル)
津波の発生が予想され、緊急的な避難が必要となったときの一時的な避難施設(屋内)です。
- 一時滞在施設(帰宅困難者用)
災害発生により帰宅の手段を失い、駅の周辺・市街地・社寺・名所旧跡などに滞留している人のために開設します。
- 福祉避難所
避難所(ミニ防災拠点)や補助避難所に収容することが困難な、要介護高齢者や障害者のために開設します。
- 広域避難場所
火災の延焼拡大による炎や煙などから、一時的に身を守る空地です。

公共施設

- 市役所
- 行政センター
- 警察署・交番・駐在所
- 消防署・消防出張所
- 防災行政用無線
- JR鉄道
- 私鉄
- 津波注意看板
(数値は設置場所の海拔値)
- 海岸からあがる階段・スロープ
- 参考避難経路
鎌倉の山の岩壁は表らから崩落しやすい箇所があります。地震発生後の状況で判断して、行動してください。
- 河川遡上のおそれがある箇所



※詳細は鎌倉市ホームページで公開中。
http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/

過去の津波記録

- 元禄地震1703年の津波記録がある位置
- 大正関東地震1923年の津波記録がある位置
- 乱橋材木座
津波は最初豆腐川に浸入し、急速に400m位沖合まで引き去った。そして、和賀江崎が長く半島状に露出するとその約20分後に再び来襲して豆腐川を中心に付近一帯の家屋や護岸を破壊し、補陀寺まで浸水したという。『鎌倉震災誌』
- 乱橋材木座
延命寺付近に達したという(滑川を遡上したのだろうか) 『鎌倉震災誌』・羽鳥(1991)
- 由比ガ浜
滑川では海岸橋が流され、橋上方の低地より東方一帯の田畑に海水が入ったという。 『鎌倉震災誌』
- 由比ガ浜
海岸橋の四つ角に漁船が1艘打ち上がったという。 『鎌倉震災誌』
- 由比ガ浜
江ノ電の旧由比ヶ浜停留所(現長谷5号踏切付近)で、濡れた女性の遺体が確認されたという。ここまで津波が到達したと推測できる。 『大正鎌倉餘話』
- 長谷
第2震のおよそ20分後、はるか沖合に大波が現れた。その時、稲瀬川付近の砂浜には被災者数十名がいたが、全て避難したという。さらに、河口周辺では多くの家屋や護岸が流された。 『大正鎌倉餘話』
- 坂ノ下
津波被害は海月楼とその周辺が激しく、家屋がほとんど破壊された。さらに県道(現星の井通りの北側に達したという。 『鎌倉震災誌』
- 坂ノ下
長谷駅近くの「兵橋(駿河屋菓子店脇)」まで到達したという。 羽鳥(1991)
- 坂ノ下
津波が鎌倉ホテル前で首まであがったという。 羽鳥(1991)
- 極楽寺
第2震の20分ほどの、3m以上の津波が由比ガ浜方面に来襲し、余波が極楽寺川にも浸水したという。 『鎌倉震災誌』
- その他
流失家屋は、坂ノ下53戸、長谷30戸、乱橋材木座(現在の材木座と大町・由比ガ浜等を含んだ地域)30戸の計113戸であったという。 『鎌倉震災誌』

安全な避難のために

市では、津波による浸水の危険性や、安全な避難を促すための様々な取り組みを行っています。

津波注意看板・海拔表示板

市は、津波注意看板や海拔表示板をとりつけています。



津波避難経路路面シート

安全な避難誘導のために、避難施設へと向かう道路に津波避難経路の路面シートを貼っています。



津波避難ビル標識

市が協定を締結した津波来襲時緊急避難建築物(津波避難ビル)には、図に示す標識を設置しています。



強い揺れや長い時間ゆっくりとした揺れを感じた時は、ただちにその場から離れ高い所へ避難を!